

まちづくりの方向性の取りまとめに向けた視点

時代は加速的に変化しており、これまでの延長線上でのまちづくりは困難となる。*1

こうした中、市民や企業、行政など様々な主体がつながり、誰もがまちづくりの担い手となり、活躍できる社会を構築していくことが重要となる*2ほか、地域の自然環境を守りながら、安全で安心なゆとりある生活空間の形成を図っていく必要がある。*3

また、食や農業、自然環境など地域の強みや魅力を活かした新たな価値の創出に取り組んでいく必要がある。*4

■ 審議会での主な意見

* 1

- 今の財政状況は未来の子供たちへの負担が大きすぎるのではないか。人口が減る中、すべてのサービスを維持することは難しいことから、例えば、公共施設においては、施設のあり方を検討し必要に応じて施設総量の適正化を進めていくべき。(第3回審議会意見)
- 課題が複合化・複雑化している社会においては、課題をテーマごとに細分化して解決しようとする、どうしても解決できない課題もあると考える。それらを解消するために、地域や行政がつながり連携して対応していくことが必要。(第6回審議会意見)

* 2

- ひとり暮らしの方に向けた対策も必要である。例えば、小学校の運動会に参加できるようにするなど、運動するきっかけ・場づくりが重要。(第6回審議会意見)
- 男女が人として同等に権利を尊重され、同一労働同一賃金の実現される方向に向かっているならば、その地域には、人が集まるし活気が沸き仕事も生まれる。男女平等の視点がこれからの時代の大きな力になるのではないか。(第1回審議会意見)
- 高齢化社会が進行する中においては、介護も重要になってくるので、より男女が協力・協働し社会を推し進めるという発想が重要ではないか。(第1回審議会意見)
- 農業分野において、労働力が不足している状況にあることから、外国人労働者の活用を含めた対策を講じていくべき。(第4回審議会意見)
- 国内・国際交流は交流に関わる方が限定的であることから、そうした体験を市民と広く共有できるようにしていくべきではないか。(第3回審議会意見)

- 今後は交流人口から関係人口へと考え方を広げるべきであり、交流の中でより良いものを相互に提供し合いながら地域に還元していくという視点も大事ではないか。(第3回審議会意見)
- 人と人とのつながりが多様化する中、町内会など地縁組織の地域における役割について、整理していくことが必要である。(第3回審議会意見)

* 3

- 帯広市は、環境モデル都市に認定されるなど、組織的に環境対策を行ってきたが、資料からは環境に対する取り組みが後退したかのような印象を受ける。時代の潮流としては、環境に対する注目度が低下しているような雰囲気を感じるが、環境を取り組みの柱として掲げる必要ではないか。(第1回審議会意見)
- 人口を増やすためには、産み育てやすい地域を目指し、出生率を上げる取り組みを重点化することが重要ではないか。(第1回審議会意見)
- 十勝・帯広は、地理的に平坦で道路が直線的に整備されていることが長所であるが、高齢になると長い距離の運転や駐車が困難になってくる。平らな土地を活かした高齢者に向けたサービス環境の提供、車の駐車し易い場所からセグウェイで街中に移動できるといった特区などがあると面白いのではないか。(第1回審議会意見)
- 十勝は、次の地点までとても距離があるので乗り物は必要であるが、交通事故の抑止を考慮した人を傷つけない乗り物にシフトしていくことが重要ではないか。(第1回審議会意見)

* 4

- 人口減少が他地域と比べて緩やかであるという事実がある。これには、必ず何か原因があるはずであり、その要因を分析して良い点を伸ばしていくべきではないか。(第1回審議会意見)
- 高等教育の修了後に帯広に戻って来ることができる仕組みが重要と考える。(第1回審議会意見)
- 「都市と農村が調和したまちづくり」は重要である。(第1回審議会意見)
- 十勝においては、スケールの大きな農業そのものが観光コンテンツになり得る。農業観光を提供していく仕組みを整えば、さらなる観光振興も可能であると考えられる。(第4回審議会意見)
- 産学官連携が成功している地域には、必ず素晴らしいコーディネーターがいることから、産学官連携を円滑に進めていくためには、コーディネーターの確保・育成が重要である。(第4回審議会意見)